

(3) 特別活動の年間計画の検討

3 今後の課題

- (1) ロングホームルーム、ショートホームルームの年間指導計画と展開例の素案づくり
- (2) 教育相談のシステム化と相談室の整備

(5) 生徒育成係

1 研究テーマ

リーダーの育成および集団生活に対する指導

2 研究内容

(1) 集団合宿訓練、リーダー講習会に関すること

(2) 活動している生徒集団の洗い出しと指導案

3 今後の課題

- (1) リーダーの育成
- (2) 集団訓練

六 研究第一年次の総括

(一) 研究第一年次は、職員の共通認識を深め、研究への足がかりとしての研究体制づくりをすすめてきた。

(二) 生徒を対象にした意識・実態調査ホームルームに関する調査及び保護者に対するアンケート調査等と分析より、生徒の実態把握に努めた。

(三) ロングホームルーム、ショートホームルーム、教育相談、リーダー育成等の基礎研究をすすめてきた。

(四) 以上のような経過により、第二年次における研究の「実践活動五項目」が決定した。

目」が決定した。

- 1 興味と関心を高めるロングホームルームの展開
- 2 一人一人を伸ばすショートホームルームの展開
- 3 ホームルーム担任の行う教育相談のシステム化
- 4 リーダー講習会等によるリーダーの育成
- 5 集団訓練による基本的生活習慣の育成

更に、次のような仮説を設定した。

五項目の実践活動を計画的、組織的、継続的に行えば、集団生活が充実し、自主性・積極性が育成され、基本的生活習慣が確立されることになり、おのずから「意欲を高め、充実したホームルーム活動」がすすめられるであろう。

付 アンケート調査資料

(一) ホームルームに関するアンケート (生徒対象) より

- 1 中学三年時の学級活動で、最も興味と関心をもった主題は「高校進学」「レクリエーション」等で、取り組み易く自ら行動するテーマに対しては関心が高く、生徒会・部活動、趣味や余暇の利用、学業生活等に対しては極めて関心がうすい。

2 中学時代に生徒会役員や学級委員等「リーダー的活動」を経験した生徒は全体の七割にすぎず、高校のホームルーム活動に影響を及ぼしている。

3 本校のロングホームルームへの参加意識については「積極的に参加していない」が一％で、そのうち半数の生徒が「興味あるテーマがない」「テーマが抽象的でとりつきにくい」とその理由をあげている。

4 ホームルームの委員や、係などの役割をもっていない六〇％の生徒は「係になっていないが将来何か役立ちたい」と意欲を示している。

(二) 生徒の意識・実態調査より

1 日常生活においては、下校途中の買食い食いは「いつも」「時々」で七六％と多く、自分の寝具も片付けない生徒が三分の一以上いる。

2 家事手伝いは七七％がしているが手伝う時間は一〇〜三〇分程度が最も多く、すずんで手伝う生徒はその内二八％である。

3 余暇の過ごし方では、遊び時間は一〜四時間で同級生同志三〜五人が平均的な状況である。テレビの視聴時間は七〇％の生徒が二〜四時間視聴している。遊びの中で一番楽しいことは「友人との話し合い」がトップを示している。

4 通学の目的は「高校生活を楽しむ」ためと考えている者が三六％

学習面で「ほとんど理解できない教科がある」が二六・〇もあり、その理解できないところは「そのまま」にしている生徒がそのうちの三分の一で、学業生活への関心は薄い。テストの結果は「単位取得に関係があるため」(五四％)と割り切っている。しかし高校生活の目的は「人間性を高める」「実力をつけ教養を高める」ことであるとする生徒も四〇％あり望ましい。

5 生徒の四一％は何らかの悩みをもち他人に相談したいと考えている。内容は「進路問題」三三％、次いで「友人関係」二二％、人生に関すること九％で相談相手は友人が四〇％と多く先生は一六％である。

6 「シンナー遊び」「無断外泊」「家出」については否定的な考えをもっているが、「学校のする休み」「酒・タバコ」「校則違反」は悪いと思っていない生徒が一三〜二一％いる。また「不良言葉」「けんか」「金を借りること」は悪いと思っていない生徒が三七〜五〇％もいる。

(三) 保護者に対するアンケートより

1 「朝の起床が悪い」と指摘している親は三分の一に及び「自室の整理整頓が悪い」と二三％の親は